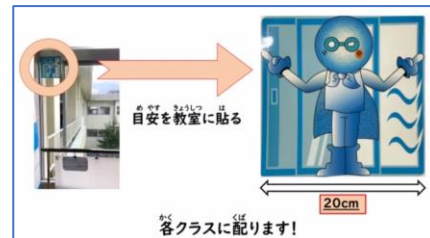




保健員会の提案

昨日からの報道で、インフルエンザの全国の医療機関から報告された患者の数が10週連続で増加し、1999年に現在の方法で統計を始めてから過去最多となりました。熊本県でも12月23日～29日までのインフルエンザの感染者数が7512件となり、前の週から1.89倍となり、統計開始以来過去最多を記録しています。



その対策として、昨日9日(木)のむらさき朝会で、保健委員会からの提案がありました。それは、教室の換気についてです。保健委員長の中山結明香さんからスライドを交えて効果的な換気の仕方について教えてもらいました。まず教室内の対角線上にある窓やドアを開けること、次に窓は20cm以上開けること、そして休み時間だけではなく授業中にも開けること、さらに開けた窓はカーテンで隠さないことなど、分かり易く教えてもらいました。そして、20cmということが一目で分かるグッズも保健員会の皆さんで制作してくれて、早速教室で活用されていました。きょだく

今月の保健目標は「教室の換気をしよう」です。その目標達成のために、各学級で目標を立て、感染症予防に向けて共通実践していこうと思います。



帯西イエローの心を感じた出来事



冬休み期間中に、私はウーパールーパーに餌を与えるために、学校に何度か足を運びました。その際、玄関周りのプランターや花が濡れていることに気付きました。そして3学期が始まると、その理由がわかりました。それは、緑化委員長の寺床蒼天さんが、冬休みに学校に来て水やりをしてくれていたということです。寺床さんは、夏休みにも水やりをしてくれました。その役割意識と責任感には感心させられました。

また、始業式の朝には、ウーパールーパーに餌やりをしている3年生の建山未弥さんの姿がありました。建山さんは、昨年度ウーパールーパーのお世話をしていた6年生の意志を受け継ぎ、今年度毎日欠かさず餌やりをしてくれています。

この二人の姿からは、自分から積極的に動ける自主性より一段上の、今の時代に求められている「主体性」を感じることができます。主体性とは、自らの意思や判断に基づき、責任を持って行動する姿勢を指します。これは単なる自己満足ではなく、周りの人々を巻き込みながら、集団を成長させていく力となります。まさに3学期を迎えた帯西の子供たちからは、主体性を感じる場面が増えてきました。帯西レッドや帯西ブルーに裏打ちされた真の帯西イエローの心が発揮され始め、嬉しく思います。

わくわくチルドレン紹介

冬休み期間中の熊日新聞に、6年生の深水倫太郎さんが、熊日学童五輪のハンドボールで活躍している写真が掲載されていました。深水さんは、東熊本ハンドボールクラブに所属していて、学童五輪で準優勝し九州大会まで駒を進めたそうです。深水さんは「ハンドボールは、仲間と協力し合って点を取って、勝利を目指していくのが楽しいです。これからもっと体力をつけて技術を磨いていきたいです。」と述べています。これからの活躍にも期待しています。

